令和３年度　学校法人中村学園　第一ひかり幼稚園

令和４年４月８日

学校関係者評価書

１．　本園の「建学の精神」

太陽のあまねくそのひかりでつつむ

太陽（自然）は万物を平等に照らし、慈しみ、はぐくみ育ててくれます。
園章にもありますように園のシンボルである「太陽」のあまねく光のように、
私たちは子どもたち一人一人と向き合い、大切に育てます。

２．本園の教育理念・方針

グローバル化やICT・人工知能などの急速な技術革新により、社会は大きく変化していきます。
本園では、子どもたちが５年後、10年後も、キラキラと輝く目でたくましく生きていける
３つの力を育みます。

教育の２本柱：「身体づくり」と「知能を育てる」！！

１.子どもの持つ素晴らしい力をぐんぐん伸ばす“土壌づくり”

子どもの「やりたい」と思う**主体的意欲**は、**遊び**を通して得られる経験と知識の中から芽生えます。本園はその芽を大切にし、自然に触れながら「健康な心」を育み、広い園庭と体育館で「身体づくり」に励みます。

２.人間として、たくましく“生きる力”を育む

本園の教育の２本柱となる「身体づくり」と「知能を育てる」を通して自らヤル気をもって、焦らずゆっくりと**学ぶ楽しさ**を培い、**自ら夢中になって取り組む姿勢**や**思考力・創造力・最後までやり遂げる力**を身に付けていきます。
本園は子どもの未来を見据え、**小学校に行ってから困らない教育**を目指します。

３.他人を思いやる心を持った子に育てる

本園では近隣の高齢者等「施設訪問」の実施や、園周辺道路を**「あいさつ通り」**と呼び、あいさつ運動に取り組むなど、地域の方との交流を図っています。また**たてわり活動**や併設保育園「キッズハウスよいち」のお友達とかかわる機会を大切にし、お年寄りや幼い子を**「思いやる」**優しい心を育んでいます。

思いやりのある子

よく考えて工夫する子

元気で仲良く遊べる子

終わりまでがんばる子

教育目標

「目がキラキラと輝いている子に育てる」

自分から進んで決まりが守れる子

３．教育課程（各学年の教育目標）

（満３歳児目標）	（年少組目標）	（年中組目標）	（年長組目標）
①園に慣れる ②基本的な生活の仕方を知り園生活を楽しむ	①基本的生活習慣を身に付ける ②集団生活に慣れる（毎日喜んで登園する）	①活動に進んで取り組み、最後まで頑張る ②友達と遊ぶ楽しさを味わう ③我慢する心を養う ④人の話を聴く態度を養う	①人の話をよく聴く ②意欲を持って最後まで頑張る ③自分の事は自分で責任を持ってやる ④誰にでも優しく思いやりを持つ ⑤我慢する心を持つ

※評価の方法

A:充分達成されている　B:達成されている　C:取り組んでいるが成果が充分でない

D:取り組みが不十分

評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
Ⅰ. 保育の 計画性	A	A	・ICT を視野に入れた計画性は、今後重要性を増していくことが予想される。不易と流行のバランスを考えながら園で育てたい、大切にしていることを継続して指導してもらいたい。 ・合宿キャンプ訓練では、なかなか経験できなくなってしまった「夏祭り」を企画したり、運動会の集団体操の工夫等、教師の子どもたちへの思いが伝わり嬉しかった。 ・昨年度の経験を活かし、子どもたちの安全・安心を考慮したうえでの、学年別・クラス別に保護者参観会の日時が設けられ良かった。 ・コロナ禍であっても保育が疎かにならない配慮があり良かった。　等
課題に対する方策			・コロナ禍が長期化する中、子どもたちの安全を確保し、安心して園生活を送れる環境作りが必須と考える。その中で、子どもたちが伸び伸びと園生活を楽しむ活動内容を考え、実施していく。 ・教師自らが子どもと一緒に活動することを楽しみ、子どもたちの意見や考えを取り入れながら、子ども主体の保育に取り組んでいく。
評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
Ⅱ. 保育の在り方 園児への対応	A	A	・感染症下で、マスクの着用、会話や運動、遊具遊び等で制限がある中、子どものメンタル面や学習、活動を工夫し、最大限フォローしたことを評価する。 ・現代の子どもたちは、求められることも多くなっていると思うが、今後も人間形成の根本的な部分を大切にすることを望む。 ・園生活を通して、子どもが目標を持つことができ、進級することへの意識の高まりから、教師が日々子どもに接している中での現れと感じる。 ・前向きな声掛け「褒める」「励ます」ことを大切にしていると思う。　等
課題に対する方策			・今後も子どもたちが「幼稚園は楽しい」「幼稚園が好き」と思ってもらえるよう、子どもたちの思いを受け止め、明るい笑顔で優しく接し、安心できる雰囲気作りをしていく。 ・子どもたちの安全を第一に考え、コロナウイルスやその他の感染症の感染防止に努めながら、子どもたちが安心して楽しめる活動を取り入れていく。

評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
Ⅲ. 教師としての資質や能力良識・適正	A	A	・教師個々の資質能力を向上させていくことは、子どもたちにとって、とても有益なことである。コロナ禍で研修の機会も十分ではないと思うが、オンライン等の活用で、更に個々の研修を進めていくことに期待する。 ・新任教師や若い教師、またその教師を支える経験豊かな教師とのチームワークやリカバリーはよくできている。支え合う気持ちと実行が重要と考える。 ・教師がいつも笑顔で気持ち良く挨拶をし、話し掛けてくれることが嬉しい。 ・集団生活ならではの視点で報告をもらい、家庭では気付けないことに気付けて助かる。　等
課題に対する方策			・園外部での研修機会が減少している分、園内研修の充実と支え合い（チームワーク）を大切にし、教師一人一人が自信を持って保育に携われるよう努めていく。 ・子どもたちを優しく包み、明るい雰囲気の幼稚園となれるよう、今後も笑顔や挨拶を大切にしていく。
評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
Ⅳ. 保護者への対応	B	B	・保護者との情報交換や報告のネットワークが形成された上で、速やかな判断と指示、対応を実施してきたことは奏功していると思う。 ・就学前の大切な一年に、子どもがどのような園生活を送っているのかを、実際の目で観られなかったことは残念だが、担任からメモや電話で教えてもらい、相談事に対しも親身になって教えてもらい良かった。 ・「DH しんぶん」や「しぜんしんぶん」に写真がたくさん掲載されていて、子どもたちが笑顔で製作や活動に取り組んでいる様子が分かり嬉しかった。 ・教師との接点が少ない保護者もいるため、希望者のみでの面談があると良いと思う。　等
課題に対する方策			・子どもたちの園での様子が保護者に伝わるよう、メモや電話、紙面等で伝えているが、思いに相違が出ることがある。今年度は、直接話ができる参観会等の時間を大切にし、積極的に様子を伝えていった。今後コロナ感染症が収束し、安全が確保できる時期が来た時には、面接の開催方法を検討しながら順次再開していく。 ・新型コロナウイルスや嘔吐下痢等の感染症が出た場合「新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン」に基づき、感染防止に対する迅速な対応が取れるよう努め、保護者への連絡については、一人一人の心や立場を傷つけることがないよう、細心の注意を払い配慮してきたが、今後も継続していく。

評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
Ⅴ. 地域の自然や社会とのかかわり	A	A	・小学校を見据えた計画的な取り組みが評価書から読み取れ、広報誌からも楽しそうな体験活動が見られる。活動が限られる中で、子どもたちの笑顔があり良かった。 ・多様性や認め合う社会の中で、いろいろな立場の方と幼い頃から交流することは、とても良いことだと思う。コロナが収束し再開ができることを願う。 ・園内の畑で収穫した野菜を持ち帰りとても嬉しそうだった。野菜の収穫や虫捕り等、自然体験学習は子どもたちにとって貴重な経験だと思う。 ・子どもたちの今後を見据え、園や家庭、地域で連携し「逞しく生きる力が身に付く教育」を今後も望む。　等
課題に対する方策			・園生活を通して、挨拶や返事、靴を揃える、椅子をしまう等の基本的生活習慣を身に付け、子ども一人一人が自信を持って就学できるよう指導していく。 ・人との繋がりを大切にし、幼児期から「相手を思いやる心」を育み、今後様々な人がいる社会に出た際経験が活かせるよう指導していく。 ・自然体験は子どもたちにとって貴重な体験となることから、今後も与一の恵まれた自然環境を活かし河川敷や園内の畑での自然体験を取り入れていく。 ・畑での栽培時に、農家さんからアドバイスをいただく等、地域の方のご協力をいただきながら、野菜栽培を楽しむ。
評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
Ⅵ. 研修と研究	A	A	・今後家庭環境の急激な変化が考えられる。児童への虐待については、喫緊な課題だと思う。家庭内で母親が孤立しないよう、ソーシャルワーカー等の外部人材も必要と感じる。 ・外部研修や視察が難しい中、園内で相互扶助の精神で研鑽を重ねてきたと思う。 ・子どもたちを取り巻く環境が目まぐるしく変化する中、情報も多岐にわたり、保護者も子育てに戸惑う事が多々ある。教師は一番身近な幼児教育のプロであり心強い存在である。困ったり、悩んだりした時には、アドバイスを望む。 ・コロナ禍前とは異なる問題が出ていると思う。教師間で情報を共有し、コミュニケ―ションを図ることを望む。　等
課題に対する方策			・オンライン研修への参加と共に、園内研修や教職員間のコミュニケーションの充実を図り、互いの意見を交換し合う中で知り得た情報を、日頃の保育に活かしていく。 ・コロナ禍で生活環境が変化する中、感染症対応した活動や精神ケア等の研修を重ねることが大切。課題に沿った研修を積み重ね、知り得た情報を教職員間だけでなく保護者にも公開し、家庭内で活かせるように「情報の共有」をしていく。 ・園内外の研修だけでなく、自己学習に努め、自己研鑽していく。

令和３年度まとめ及び令和４年度への方針

1. 令和３年度のまとめ

今年度の行事（運動会・発表会・参観会等）は、昨年度の経験を活かし、「子どもたちの安全・安心」を第一に考え、保護者の理解と協力のもと、一年間を通して学年別・クラス別に開催し、またコロナ感染拡大に伴い静岡県に「緊急事態宣言」や「まん延防止重点措置」が発出された際には、広範囲から外部の方が参加する、未就園児対象「のびのび体操教室」は、やむなく中止をして感染防止に努めた。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴ない、静岡市子ども未来局幼保支援課より「新型コロナウイルス感染症にかかわる対応」について各園における「保育・幼児教育と感染防止の両立」について通達があったことを受け、4 月 19 日付にて「新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン」を保護者に配布し、その後の「緊急事態宣言」や「まん延防止重点措置」が発出される毎に、保護者へ感染予防の注意喚起と、子どもたちの安全を第一に考え、「新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン」を踏まえての登園として、学級閉鎖や自由登園期間を設け、活動や行事内容変更、また延期をして対応した。

日頃から保護者にご協力いただき、園児だけでなく同居家族の体調をも把握し、第一ひかり幼稚園・キッズハウスよいちが同様の基準にて、感染防止対策を徹底し園運営を行ってきた。

また登園自粛を希望する園児や保護者が孤立しないよう、定期的に電話連絡をして心のケアに努めたことで、その後の登園がスムーズとなった。

コロナ禍が長期化する中、子どもたちが伸び伸びと体を動かし、楽しい園生活が送れるよう、感染防止対策をした上で可能な限り、行事や活動を実施し、園庭遊びや河川敷に出掛けたり、園内の畑での自然体験を取り入れ、心身の充実を図ったことで、子どもたちとの楽しい思い出を積み重ねることができた。

今後も感染拡大防止の徹底に努め、子どもたちが安心して伸び伸びと園生活を送れるように、園と家庭とが力を合わせて、子どもたちを見守っていく。

(子ども目線)

２．令和４年度取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み
あいさつ運動の励行	・あいさつは人との繋がりができ、牽いては自分の気持ちを他者へ伝える「コミュニケーション能力の向上」へと繋がっていく大切なものであるため、人との繋がりを大切にし、地域の方に支えられていることへの感謝の気持ちをもって今後もあいさつ運動を実施していく。 ・教師や友達と「元気で明るいあいさつ」を交わし、人と繋がる中で、「自信」や「自己肯定感」が生まれ、「幼稚園に行きたい」「幼稚園が好き」になってくれるよう、一人一人としっかり向き合いあいさつ運動を実施していく。
子どもたちがのびのびと園生活を楽しむ	・マスクの着用が定着している中、子どもたちの些細な表情や体調の変化を見逃さないよう、注意深く視診していく。 ・子どもたちが「やりたい」と思う気持ちを引き出し、よく考えて工夫する「考える力」や、目を輝かせて「夢中になって遊ぶ力」が育めるよう環境づくりに努め、材料や提案内容を工夫していく。 ・先生や友達と元気で仲良く遊ぶ中で、互いを思いやる優しい心を育めるよう、声掛けやかかわりをしていく。 ・密にならない遊び方や内容をその都度検討し、自己防衛力を培いながら感染防止に努めていく。 ・国際交流の回数を増やす等しながら「英語に触れる」機会を設けていく。
地域に根差した幼稚園づくり	・小学校と電話やメールで情報共有ができるよう努め、引き続き小学校との連絡・連携を行ない、相互理解を深め、「小学校に行っても困らない教育」として、基本的生活習慣の習得や幼児期に経験・体験をしておきたい教育の実践をしていく。 ・地域の方との交流は、コロナ感染状況をみながら、無理のない範囲で交流していく。